

第2編 人口ビジョン

第1章 大洗町の将来人口の見通し

第1節 人口ビジョンの見直しにあたって

第2節 現状分析

第3節 人口ビジョン

第1章 大洗町の将来人口の見通し

第1節 人口ビジョンの見直しにあたって

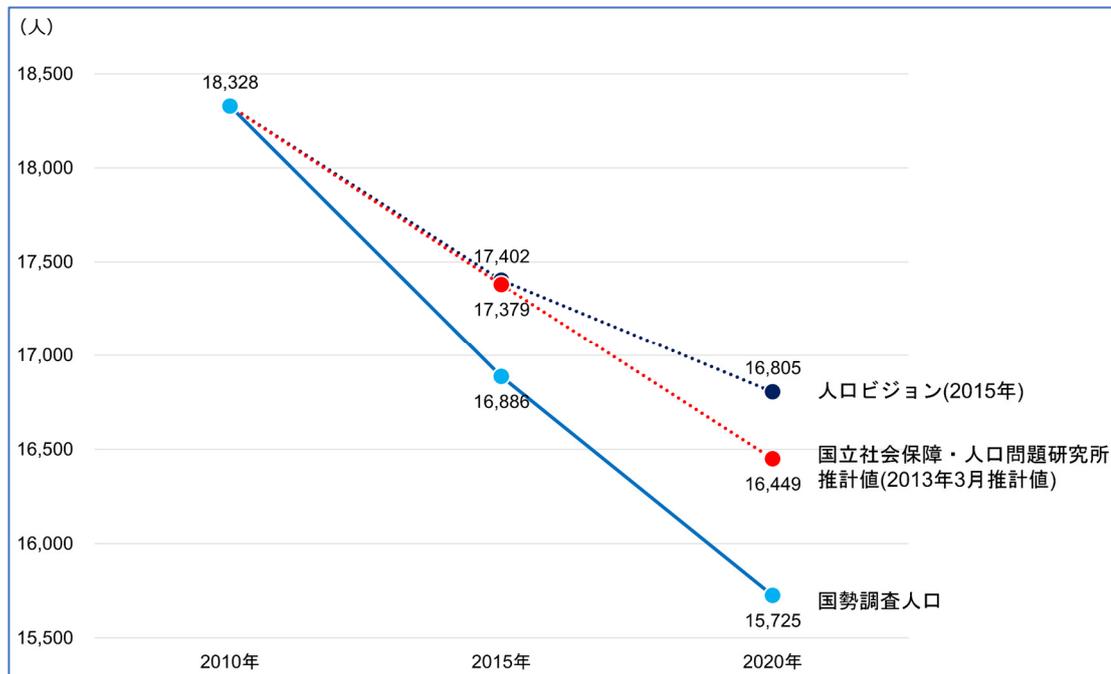
(1) 平成27年人口ビジョンの計画値と実績値

2015年(平成27年)に策定した人口ビジョンにおいては、当時の国立社会保障・人口問題研究所の推計が2040年で12,485人であったところ、各種施策の実施により、出生率の増や若年層の転入を見込み、2040年の目標人口を15,000人に設定しました。

しかし、2020年(令和2年)の実績値をみると、当時の国立社会保障・人口問題研究所の推計値である16,449人を700人以上下回る15,725人となっており、想定より早く人口の減少が進んでいることが分かります。

これを踏まえ、第6次総合計画立案の基礎とするにあたって、更なる人口減少に歯止めをかけることを目標として、直近の人口動態を踏まえながら人口ビジョンの見直しを行います。

図表16 2015年人口ビジョンの目標値と実績値



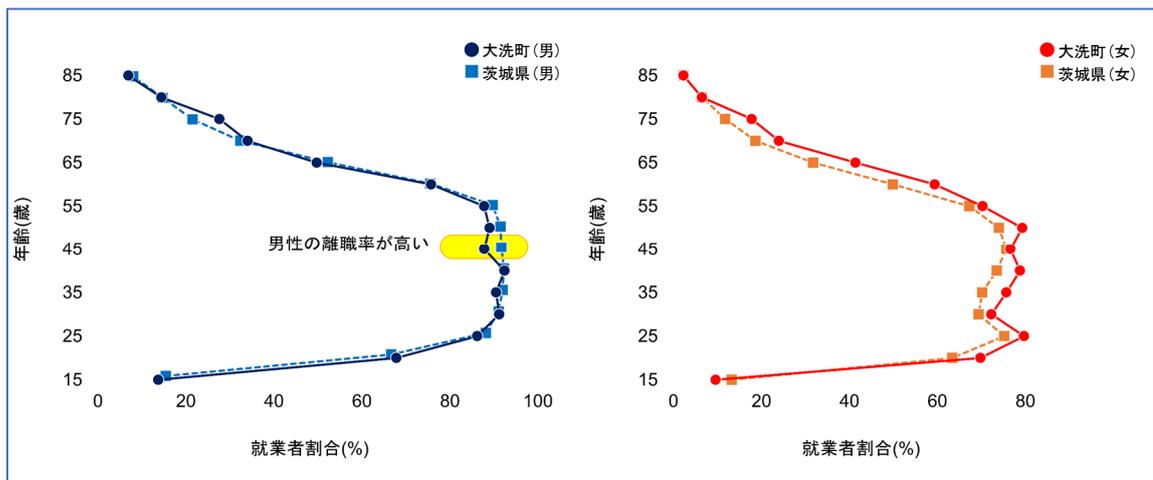
第2節 現状分析

(1) 年齢別にみる就業者の割合

本町の就業者割合をみると、男性の場合、45～54歳の層で茨城県と比較し就業率が低い状態にあることから、雇用の安定確保に向けた取り組みが必要です。

一方、女性の場合、県平均よりも就業率が高い状態にあることから、子育て支援の充実など安心して働くことのできる環境づくりが必要です。

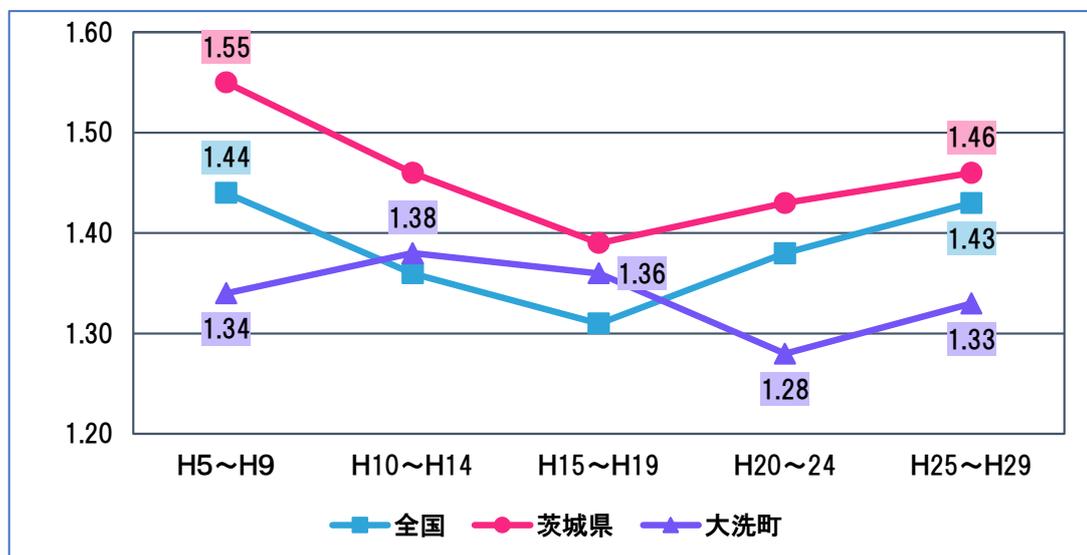
図表 17 年齢別にみた就業者の割合



(2) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率についてみると、2013年(平成25年)～2017年(平成29年)は1.33と、前の5年間に比べ上昇していますが、全国、茨城県と比較しても低く、県内では34番目と中位以下の集団に位置しています。出生率の向上は、時間を要することから、長期的な施策として取り組む必要があります。

図表 18 合計特殊出生率の推移

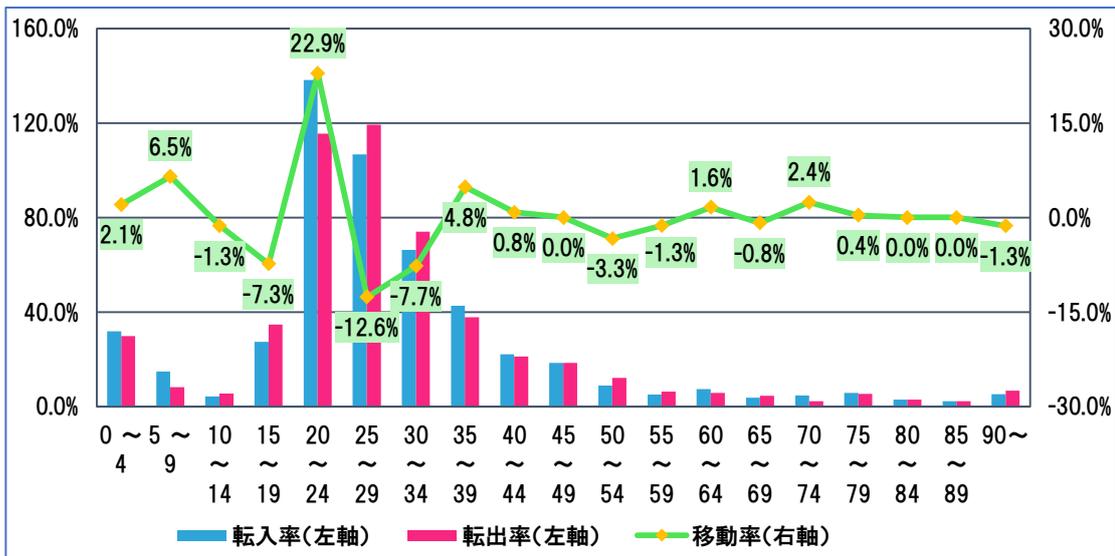


(3) 男性における移動率

男性の移動率は、20～24歳で22.9%と、転入超過が顕著となっています。

一方で、15～19歳や25～34歳では移動率がマイナスとなっており、転出が転入を上回っていることから、雇用の確保や住宅施策など人口流出を防ぐ取り組みが必要です。

図表 19 5年間移動率(男性)

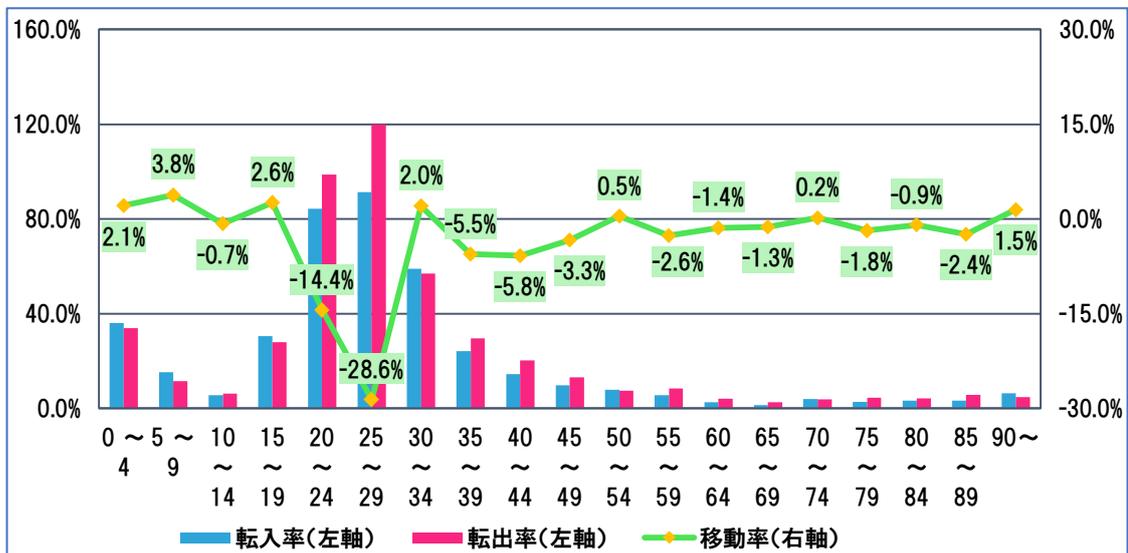


(4) 女性における移動率

女性の移動率は、25～29歳で-28.6%と低くなっています。

20～49歳では移動率がマイナスとなっている区分が多く、転出が転入を上回っている状況にあることから、若い世代や子育て世代のワークスタイルを反映した雇用促進施策や子育て支援施策の充実に取り組む必要があります。

図表 20 5年間移動率(女性)



第3節 人口ビジョン

(1) 人口ビジョンの考え方

大洗町新人口ビジョンは、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計値を参考に現状を分析し、地域経済の活性化による人口減少の克服など、人口に関する地域住民との認識を共有し、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

(2) 人口ビジョンの期間

本町では、これまで2015年(平成27年)10月に策定した「大洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、2040年における人口目標を掲げ、各種施策に取り組んでいるところです。

このため、第6次総合計画においても、目標年次は2040年と定めますが、既存施策を体系から見直し、施策に厚みを持たせるなど、人口減少の克服に向け、町全体で取り組んでいくものとしします。

(3) 目標値

新たな人口ビジョンの目標値は以下のとおりとします。

2040年に 人口12,000人を維持

○国立社会保障・人口問題研究所による推計値:9,847人(2018年3月推計)

(4) 目標に向けた取り組み

I. 合計特殊出生率の改善

本町の合計特殊出生率は、前の5年と比較し微増ながらも改善傾向にあります。若い世代や子育て世代が引き続き町内で活躍できる環境づくりとあわせ、妊娠から子育てまでの切れ目のない支援、更には未来を担う子ども達が、いきいきと活躍できる成育・教育環境に取り組むことで、合計特殊出生率 1.75(茨城県人口ビジョンを参考)を目指します。

II. 社会動態の改善

本町では、一定層を除き、転出が転入を上回る状態が続いています。なかでも、女性と若者の定着が課題となっていることから、一旦は就学等により本町を離れても回帰しやすいよう、UIJターン(※)の支援をはじめ、求職者のニーズに沿った情報提供、更には、移住定住に繋がる取り組みを推進することで、20歳代前半における約1割の流出抑制と、子育て世代の流入(年間2組の増)を目指します。

III. 安心・安全の更なる充実

住民アンケートでは、防犯体制の強化や交通安全の推進など、安心・安全なまちづくりへの期待が高い結果となっています。

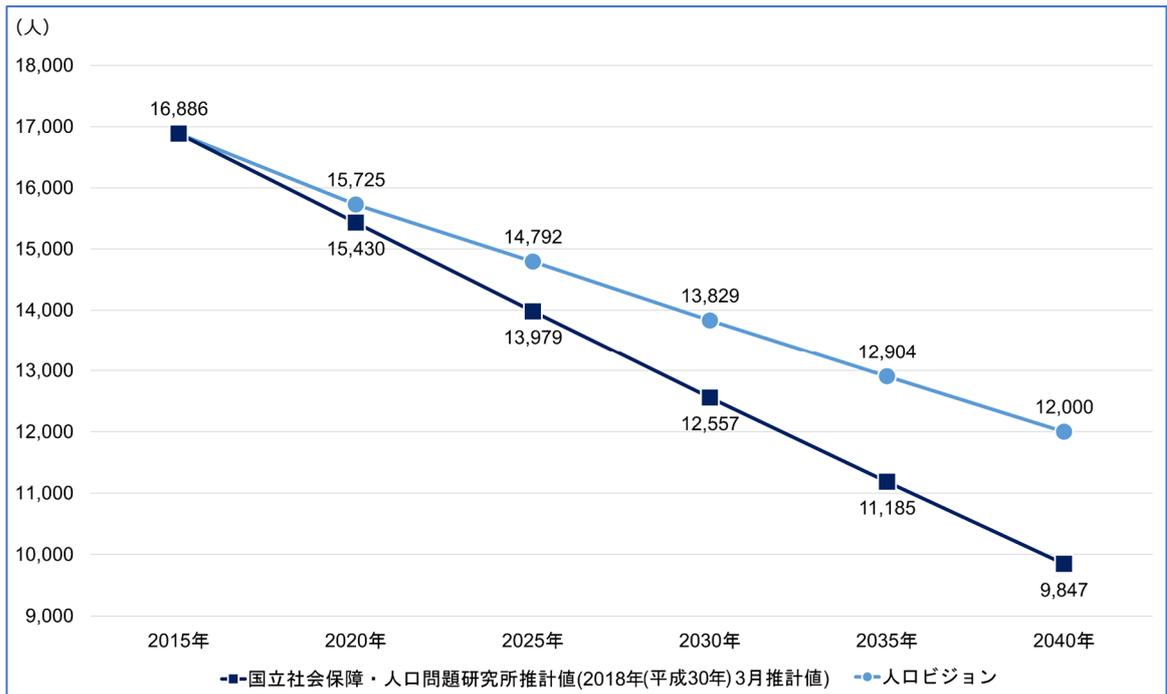
住民の命と生活を守るまちづくりや誰もが住みよいまちづくりに向けた施策を重点的に取り組み、住民や移住希望者などあらゆる人たちにとって「住みたいまち・住み続けたいまち・戻ってきたいまち」大洗を目指します。

※UIJターン

「Uターン」「Iターン」「Jターン」の総称であり、主に就職にともなう移住の人の流れについて表しています。

「Uターン」とは地方出身者が進学や就職で大都市に出た後、移住によって再び故郷へと戻る動きを、「Iターン」とは大都市出身者が就職等を機に地方へと移住する動きを、「Jターン」は地方出身者が進学や就職で大都市に出た後、出身地の近辺における中心的な都市へと移住する動きを指します。

図表 21 人口ビジョンにおける目標値



- ※ 人口ビジョン目標値については、直近の詳細な統計結果が発表されている国勢調査である、2015年(平成27年)の国勢調査を起点として推計しています。
- ※ 推計の実施にあたって、2020年(令和2年)の人口については2020年(令和2年)国勢調査速報値と整合を図っています。